

令和4年12月12日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

民生常任委員長 安道 泰治

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について調査を実施したので、智頭町議会会議規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和4年11月9日（水）～11月11日（金）

2. 場 所

大分県日田市田島2丁目6番1号 「日田市議会事務局」

熊本県熊本市西区新港1丁目4-10 「株式会社エコポート九州」

熊本県熊本市西区新港1丁目4-17 「熊本いいくに県民発電所」

3. 目 的

- (1) 大分県日田市における林業振興の取り組み
- (2) 熊本県熊本市における誘致企業による産業廃棄物の再資源化への取り組み
- (3) 食廃油から高純度バイオディーゼル燃料への循環目指す取り組み

4. 派遣委員

田中 賢 議員、岡田 光弘 議員、波多 恵理子 議員

河村 仁志 議員、安道 泰治 議員

5. 所感等

- (1) 大分県日田市における林業振興の取り組み

日田市は森林率も約83%と高く大分県を代表する林業地帯であり、地域産業として、原木市場7市場、製材所58社、関連従業員数720人、林業所得約26億円と現在でもそのウェイトは高く、重要な産業となっている。

国内最大規模の木質専用燃料発電所を稼働させている施設があり、現在までの委員会の推進事業としての木質バイオマス燃料などに使用する木質チップ材料などの活用を研究する目的として、今回の民生常任委員会では、日田市の林業の取り組み、とりわけ、木質バイオマス燃料などの活用を含む日田市の林業振興の取り組みにつ

いて「新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン」を基に説明を受けた。

智頭町と日田市では寒暖差・山の傾斜・動物と色々な違いや、問題点はあるが、森林環境譲与税や保全税などについても新たな森林管理システムを考えるうえでも参考になり、スキルアップにつながる視察研修であった。

(2) 熊本県熊本市における誘致企業による産業廃棄物の再資源化への取り組み

エコポート九州では『プラスチックマテリアル事業』『機密文書の溶解処理事業』『木質ペレット製造事業』『RPF 製造事業』の地球環境にやさしい廃棄物処理・再資源化に取り組まれている企業である。

本町と一番関連の深い木質ペレット事業については、現在休業中とのことでこの一帯のプラントの中で唯一稼働していないことが気になった。「カーボンニュートラルの実現」という理想に適合している事業であっても、いったん材料をペレットに加工するコストと合わせて、原料の輸送コストが大きな負担となること、RPF（固形燃料）と比較すると燃焼エネルギーが劣ることなどにより現時点では稼働の見込みがないとの見通しでこの種の計画を行う場合には、慎重な需要見込みとコスト計算が必須であると感じた。

本町の豊富に存在する山林の残材をはじめとした新たな資源による雇用の創出にも繋がるものと感じ、今後も町執行部とも協議を行い進めるべき新事業であると改めて感じる視察となった。

(3) 食廃油から高純度バイオディーゼル燃料への循環目指す取り組み

この会社は使用済食用油を環境負荷の少ない良質なバイオディーゼル燃料「ReESEL」リーゼルとして再生する事業を展開している。食用油の回収方法は家庭や会社を回り、回収また肥後銀行が県内全域店舗ロビーを（回収スポット）として地域の脱炭素社会の実現に向け、『わくわく油田プロジェクト』を展開している。

特徴は「超高純度のバイオディーゼル燃料」を生産していることで、その品質は国内では最高基準、世界でも3番目とのこと。特に品質にこだわったことにより、阿蘇くまもと空港ではB30燃料（バイオディーゼル燃料30%）、長崎空港ではB100燃料（バイオディーゼル燃料100%）の実証実験が行われており、燃料単価が少々高くても地球温暖化防止に有効なエコな燃料であるという、優位性が企業の社会的貢献やイメージ向上が優先される場面では有効なのではないかと感じられた。

今回の視察では、今後は環境に配慮した循環型エネルギー資源へ取り組んでいくことの必要性を強く感じた。